

専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言や重点措置など、行動の自粛による感染拡大の防止は、一定の効果はあるとされているものの、経済の低迷、失業や自殺数の増加などの短期的な指標への影響のみならず、婚姻数の減少や少子化、教育機会の減少などによる長期的な社会的損失につながることも示されている。</li> <li>・現在、感染者数の高止まりや増加傾向の県もあり、またここ 2 年間で経験した年度変わりの季節性の増加と相まってリバウンドが感染者数の減少しきれない時点で起こり、医療や保健所業務のひっ迫が短期間に起こることが危惧されている。</li> <li>・韓国（26.2%）、ドイツ（49.7%）、オーストリア（49.6%）、シンガポール（72.2%）のように、感染者数の急激な増加に転じる可能性はあるが（カッコ内は Regeneron COVID-19 Dashboard の Variants Map からの最近 30 日間のオミクロン株 BA.2 の頻度。南アフリカ（91.3%）、インド（95.3%）、デンマーク（97.4%）、スウェーデン（86.7%）と BA.2 の割合が多くても増加傾向にない国やすでにピークを越えた国もある。日本は 41.1%と増加傾向）、大阪府だけが増加に転じるのではなく、日本全国で増加に転じると考えられるので、重点措置の解除後は注意しながら日常生活を取り戻すプロセスであることを全国で共有し、感染対策の強化と継続を今一度確かめていただきたい。</li> <li>・感染増加（リバウンド）時には、基本的に 20 代、30 代の若者世代が先行して増加することから、飲食の場での感染拡大が多くなると考えられており、飲食の場でのマニュアルに従った安全な会食の対策を強化するのが効果的と考える。また、人数制限や時間制限を続けることは、年度変わりの増加への対策としても有効と考えられる。</li> <li>・流行の初期を過ぎると、集団生活の場に流行の中心が移るので、施設や病院、学校の感染対策を強化するなど、フェーズごとのメリハリのある有効かつ必要な対策を行うべきである。</li> <li>・これまでよりも病原性は低いにもかかわらず、感染力の強いオミクロン株の流行を経験して、高齢者と 10 歳代以下の小児が社会の脆弱な部分であることが明らかになった。</li> <li>・減少の続くうちに、特に社会的に脆弱な部分への準備を急ぎ行うという大阪府の方針に賛成である。</li> <li>・脆弱部分への対策として、具体的には、高齢者施設や療養型病院をはじめとする病院に入院、居住する高齢者へのワクチン接種、患者発生早期の診療と感染制御の専門家の支援を行う体制の整備、10 歳以下の小児の感染対策と周囲の大人への 3 回目のワクチン接種を推進することが必要。</li> <li>再増加の予兆を早期にとらえ、対策の強度を強める方策としては、流行の増加の早期に起こる 20 代を中心とする若年成人が増加傾向に転じるタイミングに合わせた情報発信と対策の強化が重要と考える。</li> </ul>

専門家	意見
掛屋副座長	<p>まん延防止等対策重点措置が 2022 年 3 月 21 日に全国的に解除されるが、東京や大阪などの大都市においては、連日数千人単位の新規患者数が認められている。年度末前後のイベントによる人の移動やオミクロン株の亜系統 BA.2 の影響でリバウンドのリスクが高く、注意が必要である。</p> <p>オミクロン株は若年者にとっては軽症で終わることが多いが、高齢者や基礎疾患を有する人にとっては重症化して命に関わる可能性がある。府民等への要請においては、ウイルスが伝播しやすい行動を控え、感染リスクの高い場所への立ち入りを自粛することを呼びかけることが重要である。特に高齢者施設・病院等に勤務するスタッフや高齢者・基礎疾患と同居する家族には細心の注意が求められる。高齢者への 3 回目のワクチン接種は優先的に行われているが、若年者の 3 回目ワクチン接種は進んでいないため、さらなる接種を呼びかけることが重要である。また、第 6 波では幼稚園や学校等でのクラスターが多かった。父兄は体調不良児の登園、登校に慎重な対応が求められる。さらに家庭内での濃厚接触は感染している可能性が高いため、自主的な対策を速やかに行い、一定期間の自宅待機が求められる。保健所による積極的関与が難しい場合もあるため、待機の原則（基本的な考えかた）を府民、職場、学校等で共有し、感染拡大防止を行うことで社会経済活動が維持されることを期待する。</p> <p>年度末・新学期等にて人が移動し、歓送迎会、謝恩会等で人が集まる季節である。マスクを外す機会には感染リスクが上がることを府民に再度呼びかけること。ゴールドステッカー認証店の利用推奨に加え、認証店においても 1 テーブルの人数やテーブル間隔、換気の徹底、スタッフの体調管理等の感染対策のポイントを再徹底いただくようお願いしたい。オミクロン株の亜系統 BA.2 は、未だ大阪府下では限られた検出率であるが、その病原性は従来のオミクロン株より高いとされ、今後割合が増加することが予想されている。そのため、ウイルス株の遺伝子スクリーニング（ゲノム解析）を継続し、定期的な情報発信をお願いする。大阪府下においてもコロナ診療に携わる医療機関も増えてきており、医療機関の公表が行われた。今後医療アクセスがさらに良くなるものとする。早期診断・早期治療が治療成功の鍵である。高齢者や基礎疾患を有する患者に早期に経口治療薬や抗体製剤などが使用できる環境も整いつつある。更に多くの医療機関が診療に携わっていただくことを期待する。</p>

専門家	意見
<p>忽那委員</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の日本国内での第 6 波は、新規変異株であるオミクロン株の影響もあり過去最大の感染者数を記録し、また死亡者についても 1,000 名を超えて確認されています。</p> <p>当初「オミクロン株は重症化しにくい」と言われていましたが、これはオミクロン株がワクチン接種をした人にも感染しうること、そしてワクチン接種者が感染した場合は重症化しにくくなっていることが多分に影響していることが分かっており、病原性のみを比較すると野生株（いわゆる武漢型）やアルファ株と大きな差はないのではないかとする見解もあります。</p> <p>特にワクチン未接種者や、ブースター接種がまだ終わっていない高齢者・基礎疾患のある方にとっては脅威であることは、府民の皆さまにもよく知っていただきたいと思います。</p> <p>こうした中、第 6 波の感染者は減少傾向にあります。</p> <p>これもひとえに府民の皆さまが感染対策にご尽力されたおかげです。心から感謝申し上げます。</p> <p>新規感染者数は減少しており、それから少し遅れてようやく入院患者数や重症者数、1 日の死亡者数も減ってきており、医療の逼迫についても徐々に緩和されつつあります。</p> <p>3 月 21 日をもってまん延防止等重点措置も解除されます。</p> <p>しかし、第 5 波の後とは大きく状況が異なります。</p> <p><u>感染者の減少スピードは遅く、地域によってはすでに横ばい、あるいは再上昇の傾向も見られています。</u></p> <p>これは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オミクロン株に対しては、ワクチン接種によって感染を防ぎ切ることは困難であること</li> <li>・第 6 波では小児の感染例が多いこと</li> </ul> <p>などが関係しているものと考えられます。</p> <p>この新規感染者数の減少傾向は長くは続かない可能性があります。</p> <p><u>再度の感染者の増加をできる限り遅らせるためには、大規模なクラスターを少しでも減らすための努力が重要です。</u></p> <p><u>具体的には、会食の際の人数を最小限にすることが有効と考えられます。</u></p> <p><u>年度末・年度始まりにかけて、送別会・歓迎会・卒業式・入社式などのイベントが行われやすい時期ですが、大人数が集まったの会食は避けるべき状況です。</u></p> <p>皆さまにおかれましても、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p>

専門家	意見
佐々木委員	<p>府民への要請に関して、全体的に同意する。まん延防止等重点措置の解除後のリバウンドを防ぐためにも、個人個人の基本的な感染防止対策や、会食時の4ルールの遵守など、少しでも感染予防に役立つと思われることは、強く呼びかけ、注意喚起すべきである。ただ、ゴールドステッカー認証飲食店での開店時間制限の撤廃は良いとしても、非認証飲食店では開店時間制限を継続しても良いのではないかと。</p> <p>また、第6波で多くの感染者と死者が出た高齢者施設に対して、感染予防と感染の早期発見のためのチェックの徹底を、再度強く要請した方が良い。</p>
茂松委員	<p>今回の府民等への要請について、資料記載内容に賛同する。要請期間（3/22～4/24）は、様々なイベント（入学・就職・異動等）があることを念頭に、感染予防策（不織布マスクを使用し鼻まで覆う／手指消毒／人と人との接触を避ける／適度な換気）を引き続き講じていただきたい。</p> <p>また、ワクチン接種（3回目含む）を前向きにご検討いただくとともに、体調不良の際は、かかりつけ医（近隣の医療機関）や、大阪府ホームページ掲載の診療・検査医療機関に電話連絡の上、速やかな受診（相談）をお願いしたい。</p>

専門家	意見
白野委員	<p>・府民への要請について  前回会議資料の死亡例の分析をみても、ワクチンのブースター接種が重症化・死亡の抑制に有効であることは明らかである。  <u>高齢者はもちろんのこと、基礎疾患のある人、高齢者や基礎疾患がある人と接する人には早急に接種していただきたい。</u>  また、多忙や副反応の不安などで接種できていなかった人にも、現在は接種機会が多いことを周知し、この機会に接種していただきたい。</p> <p>まん延防止等重点措置が解除となるため、夜間の飲食の機会も増え、感染の再拡大は避けられない。  <u>自粛疲れでおろそかとなっている感染対策の強化を、あらためて呼びかける必要がある。</u>（換気、手指衛生など）</p> <p>・医療機関への要請について  地域単位での往診体制の確保について言及があるが、<u>コロナ治療ができる医療機関の拡大を図っていただきたい。</u>  現在使用される中和抗体薬や経口薬は、処方可能な医療機関が登録制であり、流通している製剤数も多くはない。一方、抗ウイルス薬レムデシビルについては流通制限はなく、どの医療機関でも処方可能である。近いうちに軽症患者にも適応拡大される見込みであり、<u>クラスター発生施設などでも早期から使用することにより重症化、死亡率を低下させることに寄与すると思われる。</u>  <u>地域の感染症の中核的な医療機関等は、高齢者施設の感染制御の支援を行うことはもちろんであるが、治療についてもアドバイスすることが求められる。</u></p> <p>・第7波に向けて  第5波の後には比較的長い小康状態があったが、第6波はすでにBA.2株が出現しており、英国やデンマークなどBA.2株がすでに増えている国のデータをみても、新規感染者数は下がり止まりのまま推移し、現在入院している中等症・重症患者数があまり減らないうちにすぐに増加に転じることが予想される。  しかしながらまん防の要請と解除の繰り返しは、府民の理解が得られにくくなっている。<u>再増加した際に再度まん防を要請するのか、ある程度の感染者数の増加は許容するのか、何を指標とするのか、早急に決めておく必要があるだろう。</u></p>

専門家	意見
倭委員	<p> <u>大阪府の府民等への要請について賛同いたします。感染力が強いオミクロン株の特性を踏まえた基本的な感染防止対策の徹底を引き続きよろしくお願</u>  <u>致します。今後、感染拡大が想定される BA.2 ではさらに感染力が強いことが報告されています。特に、高齢者との同居家族や、高齢者施設、医療機関等</u>  <u>における感染防止対策のなお一層の徹底が必要です。また、今後はさらに児童施設や学校内における感染拡大が予想されます。小児の重症例も大阪府に</u>  <u>おいて散見されています。施設内でのクラスターの発生にご留意いただくことや、さらに家庭内で感染を広げないよう家庭内での感染対策も重要です。一般府</u>  <u>民に対しては 3 密の回避、マスク着用、手洗い、こまめな換気等の基本的な感染防止対策の徹底をよろしくお願</u>  <u>致します。少しでも症状がある場合には</u>  <u>早めに検査を受診すること、感染不安を感じる無症状者についても、無料検査事業を利用するなどして検査を受診していただきたい。会食を行う際には、4</u>  <u>ルール(同一テーブル 4 人以内 ・2 時間程度以内での飲食 ・ゴールドスタッカー認証店舗を推奨 ・疾患等によりマスク着用が困難な場合以外のマスク会</u>  <u>食)の徹底にご留意していただきたい。また、これからの時期において、特に、歓送迎会、謝恩会、花見においてはルールを徹底していただきたい。都道府県間</u>  <u>の移動は、基本的な感染防止対策を徹底するとともに、移動先での感染リスクの高い行動をお控えいただきたい。学生に対しては、発熱等の症状がある場</u>  <u>合は、登校や活動参加を控えるよう、周知徹底していただきたい。また、学生寮における感染防止策などについて、学校側は学生に注意喚起を徹底して</u>  <u>いただきたい。感染リスクの高い行動 (旅行や、自宅・友人宅での飲み会、特に、謝恩会や花見など、多人数が集まる会食、部活動や課外活動における感染リ</u>  <u>スクの高い活動(合宿等)や前後の会食)について感染防止対策を徹底していただきたい。 経済界へのお願いとしては引き続き、在宅勤務(テレワーク)の活</u>  <u>用や休暇取得の促進等による出勤者数の削減の取り組みや、時差出勤、自転車通勤等、人との接触を低減する取り組みを進めていただきたい。歓送迎会や</u>  <u>花見の際は、感染防止対策を徹底していただき、また、休憩室、喫煙所、更衣室などでのマスクを外した会話を控えることにもご留意いただきたい。イベント、</u>  <u>施設、飲食店での引き続きの感染対策の徹底もよろしくお願</u>  <u>致します。感染対策が依然、徹底されていない飲食店等の利用は自粛していただきたい。</u>  <u>最後に、ワクチン 3 回目追加接種を推進していただきたい。感染のリバウンドを抑え、4 月に入って再度のまん延防止等重点措置の要請を行う事態にならない</u>  <u>ようによろしくお願</u>  <u>致します。</u> </p>